ニュー・イングランド・クリニック（台湾）とMOU
がん陽子線治療センター　医師の研修などで連携

南東北グループの南東北がん陽子線治療センターは、8月21日㈪に台湾・台北市の「New England Clinic」（黄柏栄院長）と国際医療連携に関する覚書（MOU）を交わしました。同センターがMOUを結ぶのは初めて。総合南東北病院では平成22年から中国やサウジアラビア、インド、インドネシア、ドイツ、ロシアなどの医療機関とMOUを締結しており、グループとしては今回が14番目です。

締結式に先立ち黄院長と蔡宜君院長夫人、子息の黄偉倫さんが総合南東北病院を訪れ、渡邉一夫理事長、寺西寧院長ら幹部を表敬訪問。黄院長は自国にプロトン施設が1基あるものの医師が不足しているなど自国の放射線治療の現況を説明「人材育成に協力をお願いしたい」と要請しました。

締結式は同3時過ぎから陽子線治療センターで行われ、村上昌雄センター長と黄院長が①中国医師の短期間研修受け入れ（1回に2～3人）②6か月程度の長期研修受け入れ（複数の医師）③中国の患者紹介ーなどで合意し覚書に調印しました。ニュー・イングランド・クリニックは、すでに東京クリニックとMOUを締結しており、患者数人を紹介するなど相互協力を進めています。

覚書を交わす黄院長と村上センター長（左）

渡邉理事長を表敬訪問した黄院長（前列右から2人目）ら

脳梗塞後遺症「手足のつっぱり」への磁気刺激治療（rTMS）

総合南東北病院神経内科科長　久保　仁

脳梗塞後遺症の一つ、手足のつっぱり（痙縮）は、シャツの袖に腕を通すのが困難、物をつかもうにも腕が伸びない、足首が伸びて踵を地面につけることが難しく、歩くのに苦労をするーなど日常生活に様々な影響を及ぼします。

痙縮に対する治療の中でも比較的有効なものとしてボツリヌス毒素を、つっぱりの原因になっている筋肉に注射して、それを軽減する治療があります。それ以外に近年試みられ、注目を集めている方法として「反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）」があります。

この方法は、コイル（図1）から磁場を発生させることにより頭蓋内に渦電流を生じさせる装置を用いた治療で痛みなく直接的に脳の神経を刺激することができます（図2）。当院では東京慈恵会医科大学付属病院リハビリテーション科の安保雅博教授が考案したプロトコールを導入しています。この刺激により左右大脳半球間のバランスを改善、リハビリテーションに対する回復反応を改善させる理屈です。

図1：8の字コイル

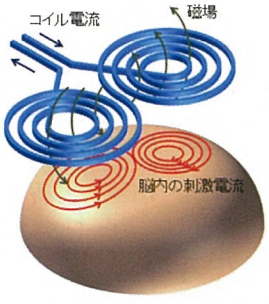

図2：脳内刺激電流の発生

具体的には、約2週間の入院プログラムを組んでいます。まず入院時に身体能力の詳細なチェック、刺激部位の同定を行います。翌日から、午前中に40分間の磁気刺激、その後リハビリテーション科のセラピストが付き添うリハを1時間、自主トレを1時間行い、午後は、セラピストつきのリハと自主トレを1時間ずつ施行します。これを約2週間の入院期間内で休日を除いて連日行います。退院前日に身体機能評価を再度行い、翌日に退院となります。

この反復経頭蓋磁気刺激での自覚症状の改善程度は様々ですが、これまで患者さんからは「箸が使えるようになった」「靴紐を結ぶことが出来た」「外出・外食が楽しくなった」などの声が聞かれました。

このように磁気刺激療法は麻痺がすっかり消える魔法の治療ではありませんが、患者さんが少しでも生活しやすく出来る可能性があります。更にあきらめていた後遺症に少しでも改善がみられると、将来に対する希望もが持てるようになるかもしれません。少しでも後遺症を改善させたい、新しい治療法をご希望の患者さんには試してみる価値があります。反復経頭蓋磁気刺激治療を考えてみたい方は南東北第二病院ｒＴＭＳ窓口までご一報下さい。

図3：入院プログラム

	水 1日目	木 2	金 3	土 4	日 5	月 6	火 7	水 8	木 9	金 10	土 11	日 12	月 13	火 14	水 15日目
午前	入院	rTMS（40分）			休み			自主練習（60分）				休み			退院
		個別リハビリ（60分）						rTMS（40分）							
		自主練習（60分）						個別リハビリ（60分）					評価（60分）		
		昼休み						昼休み					昼休み		
午後	rTMS試し	個別リハビリ（60分）						自主練習（60分）					評価（60分）		
	評価（120分）	自主練習（60分）						個別リハビリ（60分）							